

2026年度 大学院入学試験問題【Ⅱ期】

国際日本学研究科 国際日本学専攻 (博士前期課程)

科目：専門科目【文化・思想研究領域】

注意1) 解答用紙は、指定された用紙を使用しなさい。その際、問題番号を明記すること。

(例 I-(1)、II-(2))

注意2) 希望指導教員の所属する研究領域の問題を解答すること。

注意3) 回答は日本語で行うこと。

I. 論述問題

次の2題のうち1題を選択して、論述しなさい (字数の制限はありません)。

(1) 近代以降の日本の大衆音楽シーンにおいて、しばしば「過去の音楽」のリバイバルという現象が見られる。特定のジャンルや一定の時期に絞って具体例を挙げながら、そのような「リバイバル」が起こった原因とその経緯、現在における影響や今後の展望について説明しなさい。

(2) 西田幾多郎は『善の研究』の序に「個人あって経験あるにあらざ、経験あって個人あるのである」と記している。『善の研究』で展開されている思想をかえりみながら、この言葉によって西田が言おうとしたことはどのようなことであると考えられるかを述べなさい。

II. 解説問題

次の(1)～(6)の中から2つを選んで、解説しなさい (字数の制限はありません)。

- (1) J-Pop
- (2) 歌謡曲
- (3) ニュー・ミュージック
- (4) プラトン「洞窟の比喩」
- (5) ベンサム功利主義
- (6) カント「超越論的統覚」